

2018 年 5 月 31 日

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

各位

お客様本位の業務運営を実施するにあたってのKPIについて

弊社は、三井住友トラスト・ホールディングス株式会社が公表している「三井住友トラスト・グループのフィデューシャリー・デューティーに関する取組方針（以下、取組方針）」および金融庁が公表している「顧客本位の業務運営に関する原則」を踏まえ、「フィデューシャリー・デューティー行動計画」（以下、FD行動計画）を策定し、お客様本位の業務運営の取組みと定着の成果指標（以下、KPI）を設定しています。

KPIについては、定期的に状況を公表するとともに、随時、見直ししていく方針です。

1. 既設定のKPIの状況について

2017 年 6 月以降の状況は、「別紙 1」（2～4 ページ）の通りです。

2. 新たな運用KPIの設定について

弊社は、中長期の資産形成を安心して託して頂ける運用商品の開発等により、多くのお客様から「中長期投資といえばSMTAM（スミタム＝三井住友トラスト・アセットマネジメント）」と支持して頂ける資産運用会社を目指しています。

今般、本取組みに関して運用力の高度化を図る成果指標として、「別紙 2」（5～9 ページ）の通り、新たな運用KPIを設定しました。

弊社は、FD行動計画の下、お客様へより高い質の金融商品、サービスをご提供し、お客様にご満足とご信頼をいただける資産運用会社を目指してまいります。今後とも更なるご愛顧を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

既設定の KPI の状況について

弊社は、お客様本位の業務運営の取り組みと定着の成果指標（以下、KPI）を設定し、公表しています。

KPIの状況については、定期的に公表していくとともに、随時、見直していきます。2017 年 6 月以降の KPI (6 項目) の状況は、以下の通りです。

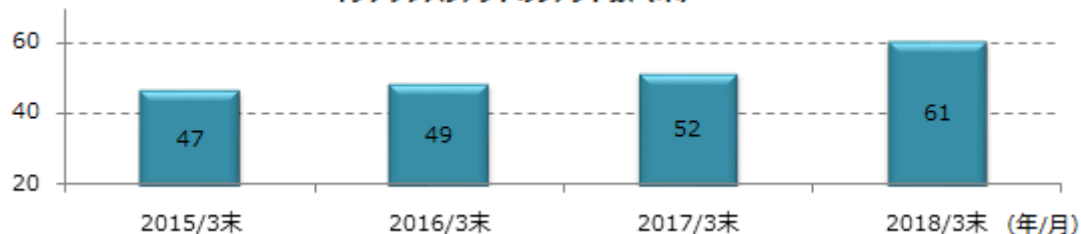
① 【インデックスファンドの数(本)】: 積立・分散投資に資する商品の提供

・弊社は、お客様の資産形成に資するファンドとして、インデックスファンドに力を入れています。お客様の多様なニーズにお応えするため、投資地域・資産の異なるファンドを豊富に取り揃えとともに商品ラインアップを拡充しています。

・お客様の資産運用コストが比較的低い「SMT インデックスシリーズ」の拡充に努めており、2017 年 6 月に「SMT JPX 日経中小型インデックス・オープン」、2017 年 11 月に「SMT ゴールドインデックス・オープン（為替ヘッジあり、為替ヘッジなし）」を設定しました。

・弊社のインデックスファンドの本数は、2018 年 3 月末には 61 本（2017 年 3 月末比 +9 本）まで拡充しています。

インデックスファンドのファンド数（本）



【注】インデックスファンドは SMA（*）用ファンド、DC 用ファンドを除く。

（*）SMA とは、Separately Managed Account の略で、一般にラップ口座と言われ、金融機関が投資一任契約に基づいて、投資家から預かった資金を投資家の運用方針に従って一括して運用・管理する口座のことです。

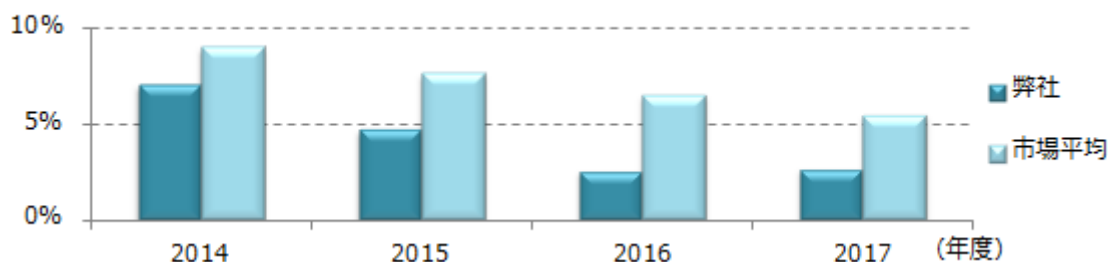
② 【分配金比率(%)】: お客様資産の効率的な運用

・弊社は、適正な分配金水準が運用の効率性を高め、ひいてはお客様の資産形成に資するものとして、ファンドの分配金を定期的に見直しています。

・2017 年 9 月には、「収益分配の基本方針」を弊社ウェブサイトで開示しました。弊社は、ファンドの分配方針を、大きく「資産成長型」、「安定分配型」、「実績分配型」の 3 つに分類し、ファンドの運用状況、市況動向等をもとに適切に決定していきます。

・弊社の 2017 年度の分配金比率は、引き続き低水準を維持しており、市場平均を下回っています。

分配金比率（%）



【注】分配金比率 = 年度中の収益分配金（*）総額 ÷ 前年度末純資産総額

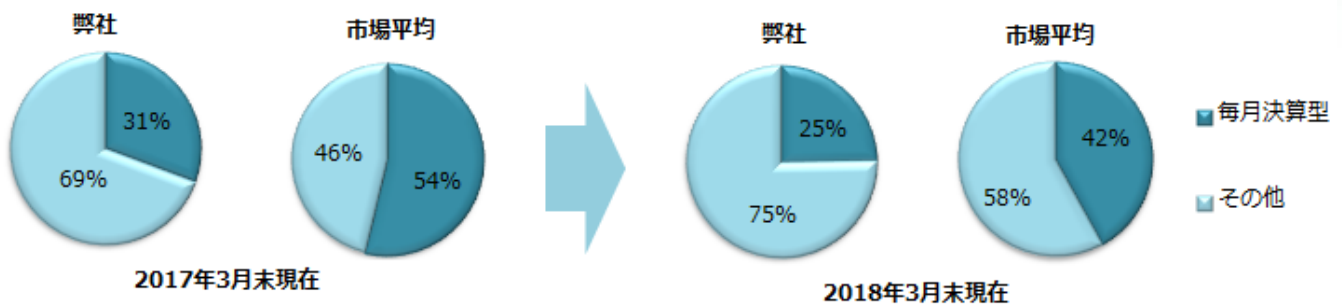
（*）収益分配金とは、投資信託の決算が行われた際に支払われる金銭。

【出所】「市場平均」は、投資信託協会のデータを基に弊社が作成。

③ 【決算回数別純資産総額比率(%)】: お客様資産の効率的な運用

- ・一般的に、決算回数を減らし分配金を再投資することが、運用効率を高めお客様の資産形成に資するものと考えられています。
- ・弊社では、お客様のニーズと運用効率のバランスについて常に関心を払っており、弊社の毎月決算型ファンドの全体に占める比率は、2018年3月末は25%となり(2017年3月末31%)、市場平均の42%(2017年3月末54%)を下回っています。

決算回数別純資産総額比率 (%)



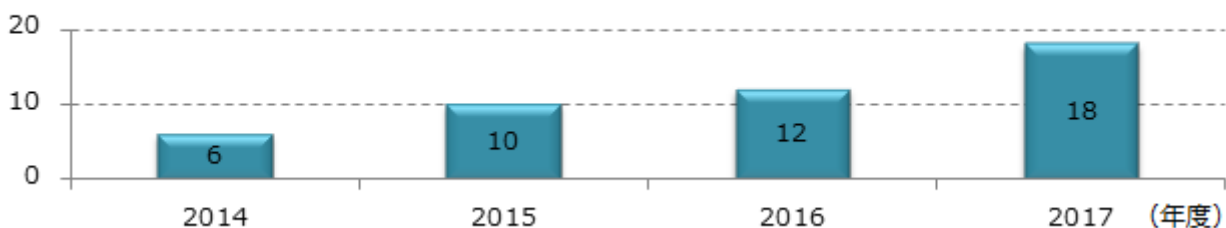
【出所】 「弊社」は株式投信（追加型＋単位型、除くETF）を弊社にて集計。

「市場平均」は、投資信託協会のデータを基に弊社が作成。

④ 【公募投資信託の繰上償還件数(件)】: 運用上非効率なファンドを減らす取組み

- ・ファンドの残高が大幅に減少すると、資金制約から当初の運用目的の実現が困難、あるいは各種取引コストの相対的増加という問題が生じる場合があります。
- ・このため、弊社は運用目的の実現、または効率的な運用が難しいと思われるファンドの繰上償還に取り組んでいますが、2017年度は18本の繰上償還を実施しました。

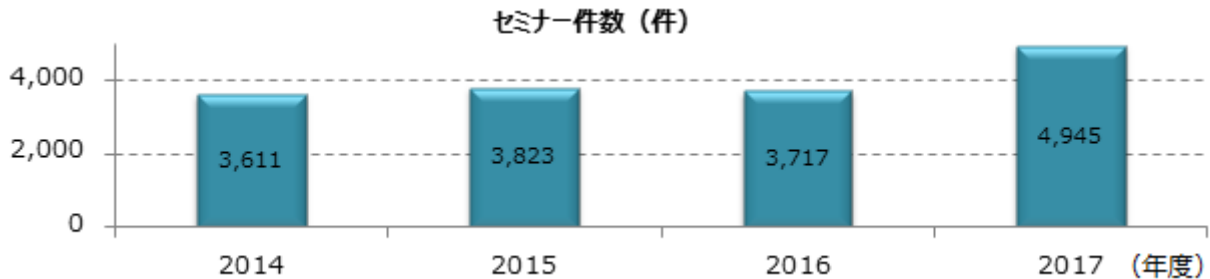
公募投資信託の繰上償還件数 (件)



⑤ 【セミナー件数(件)】:お客様へのコンサルティング実践と情報提供

・弊社は、お客様向けセミナー・販売会社様向けサポートの充実を通して、資産運用の考え方ならびに市場に関する適時適切な情報提供を行うなど、お客様の投資判断に役立つ情報の提供を継続しています。

・2017年度のセミナー件数は4,945件(2016年度比+1,228件)となりました。



【注】セミナー件数は、お客様向けセミナーと販売会社様向けサポートの合計件数。

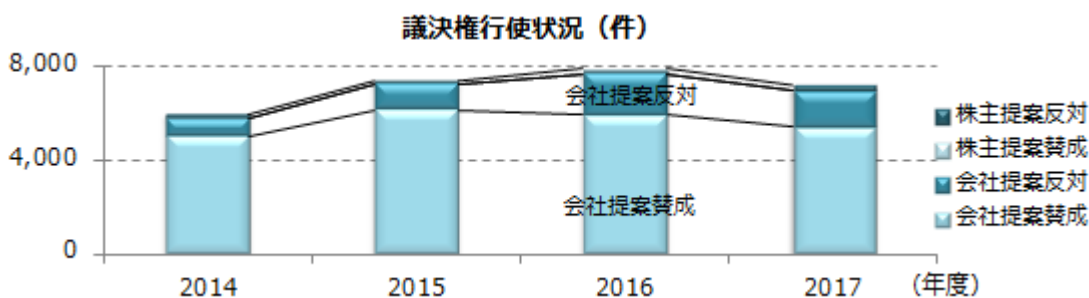
⑥ 【議決権行使状況(件)】:利益相反管理ならびにスチュワードシップ活動の推進

・弊社はグループ内での利益相反管理の向上に取り組んでいますが、株式議決権行使において、定期的に議決権行使ガイドラインを見直し、議決権を行使しています。同ガイドラインについては、株主総会での議決権行使状況を踏まえた改定を行うとともに、三井住友信託銀行の運用事業との統合を控え改定を行い、弊社ウェブサイトで開示しました。

・お客様への情報公開の充実策として、同ガイドラインに加え行使結果について公表していますが、2017年4月以降の株主総会での議決権行使分より、会社別・議案別に議決権の行使状況(※)を、弊社ウェブサイトで開示しています。

(※)行使状況については、弊社ウェブサイトをご覧ください。

(URL) <http://www.smtam.jp/company/policy/voting/>



【注】

①反対は、反対と棄権の合計件数。集計対象期間は、前年度の7月から当年度の6月までの1年間。

②2017年度は、前年までガバナンス強化の一環として増えていた監査等委員会設置会社への移行等に関連する議案が減少したため、議決権行使数が減少しています。なお、2017年度の会社提案合計は6,984件(前年度比▲739件)、株主提案合計は201件(前年度比+58件)となっています。

以上

新たな運用KPIの設定について

弊社は、中長期の資産形成を安心して託して頂ける運用商品の開発等により、多くのお客様から「中長期投資といえばSMTAM(スミタム＝三井住友トラスト・アセットマネジメント)」と支持して頂ける資産運用会社を目指しています。今般、本取組みに関して運用力の高度化を図る成果指標として、新たな運用KPI(①～④)を設定しました。

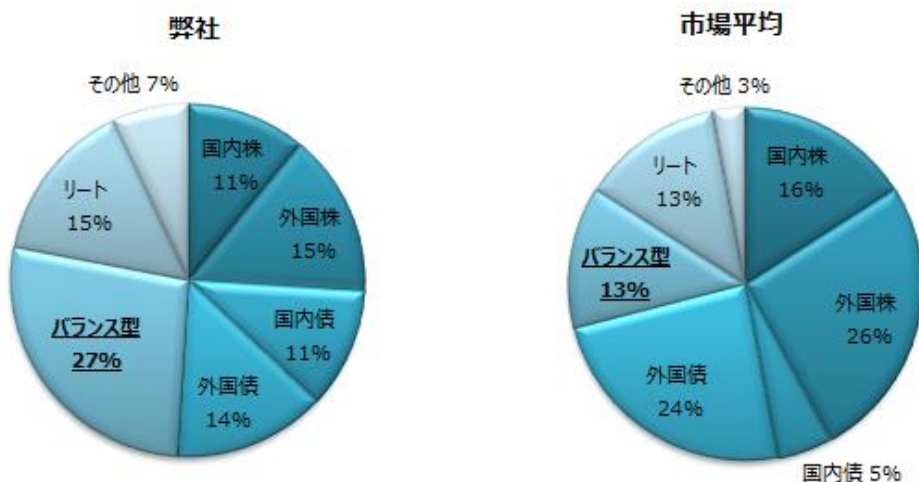
(※)以下の記載は、弊社ファンド、市場ファンドとも、公募ファンドを対象にしたデータで作成、記載しています。

(はじめに) 中長期の安定した資産運用のために

【商品ラインアップに占めるバランス型ファンドの比率(%)】(運用KPI①)

- ・バランス型ファンド(※)は、株式と債券など異なる値動きをする資産を組み合わせることで運用することにより、安定した値動きが期待できます。バランス型ファンドのこのような特性を踏まえ、弊社ではバランス型ファンドの開発に力を入れています。
- ・弊社の商品ラインアップに占めるバランス型ファンドの比率(純資産残高ベース)は27%となっており、市場平均の13%を上回っています(図表1)。
- ・以上の観点から、弊社は市場平均を上回るバランス型ファンドの比率を今後も維持してまいります。

(図表1) 商品ラインアップに占めるバランス型ファンドの比率(%)



【時点】2018年3月末時点。【出所】「弊社」は、株式投信(追加型+単位型、除くETF)を弊社にて集計。「市場平均」は、投資信託協会のデータを基に弊社が作成。

(※) バランス型ファンド(バランス型投資信託)について

- ・バランス型投資信託とは、一つの資産に偏ることなく、「株式」「債券」「リート」や「日本」「先進国」「新興国」など値動きの異なる複数の資産や地域に分散して運用する投資信託のことで、一般的に、ある資産が値下がりしたとしてもほかの資産が値上がりするなどにより、ファンド全体として安定した値動きとなる点に特徴があります。お客様にとっては、少額から、ひとつのファンドで、複数の資産に分散投資することが可能となります。
- ・運用会社では、リターンの高さや値動きの大小に応じ、資産・地域毎の投資対象やその配分割合を定めた様々な種類のバランス型投資信託を提供しているほか、資産毎の値動きに応じ、値上がり資産を売却し、値下がり資産を買戻すなどファンド内の資産配分を調整することなどから、長期分散投資に適した投資信託と言えます。

1. 運用パフォーマンスに関するKPI

【バランス型ファンドの運用実績①】:リスクとリターンの関係～投資効率の向上(運用KPI②)

・弊社では、お客様から中長期の資産形成を安心して任せいただけるよう中長期の「シャープレシオ」の向上に取り組んでまいります。

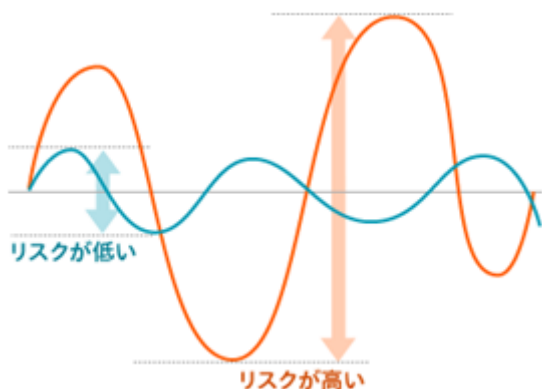
・弊社のバランス型ファンド(公募バランス型ファンドのうちトラックレコード 5 年超のファンド)の過去 5 年のシャープレシオ(「0.76」:2018 年 3 月末時点)と弊社の各資産ファンドのシャープレシオの実績は(図表 5)をご覧ください。

・資産運用では、リターン(収益率)の振れ幅(標準偏差)の大きさを「リスク」と捉えます。振れ幅が大きくなれば、その分不確定要素が大きくなりますので、投資対象を選定する際には、リターンの大きさに加え、リスクの大きさを考慮する必要があります(図表 2)。

・また、リスクは、何に投資するかという投資対象によって違いがあります。一般的に、リスクが小さい資産はリターンも小さく(ローリスク・ローリターン)、リスクが大きい資産はリターンも大きい(ハイリスク・ハイリターン)傾向にあります(図表 3)。

・リスクとリターンに関するこのような関係から、リスクに対するリターンを測る指標が重要となります。「シャープレシオ」は、リスク 1 単位当たりのリターンを測るもので、この数値が大きいほど、リスクをとったことによって得られたリターンが大きいこと(＝効率よく収益が得られたこと)を示します(図表 4)。資産運用に際しては、お客様それぞれが許容できるリスク水準を考慮したうえで、より大きいシャープレシオを提供できる商品を選択することが重要となります。

(図表 2) リスクのイメージ



(図表 3) 資産別のリスクとリターン

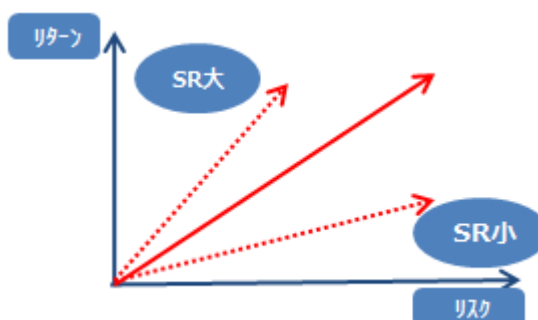


※ 上記はイメージであり、将来の成果を保証するものではありません。

(図表 4) シャープレシオ(SR)

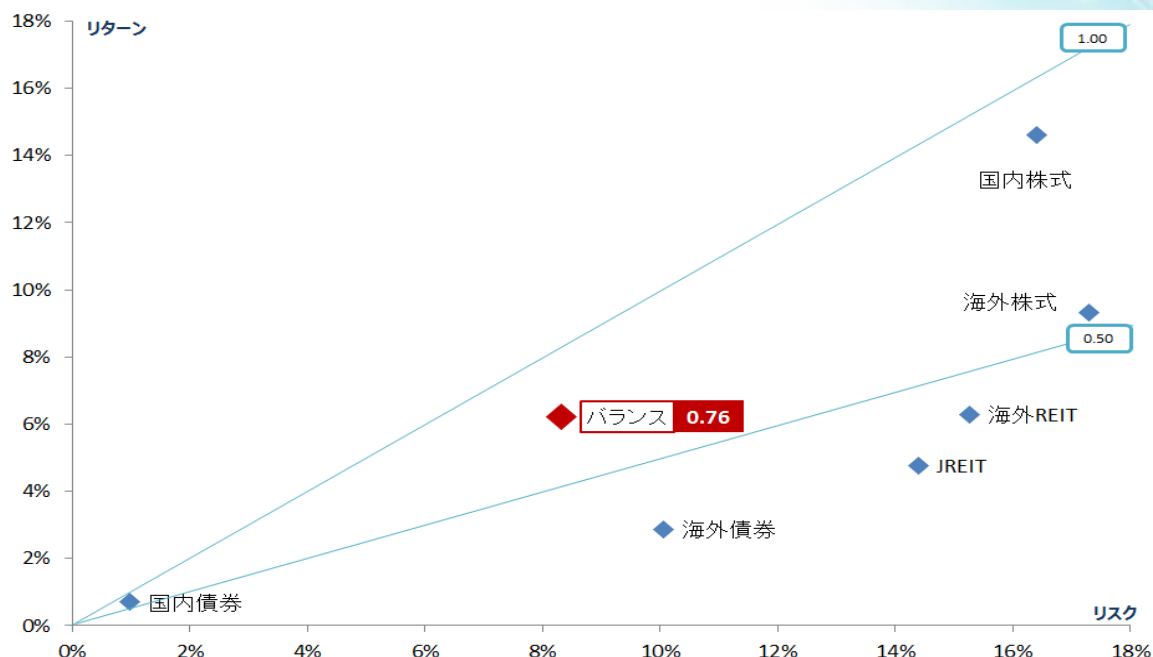
$$\text{シャープレシオ} = \frac{\text{ポートフォリオの収益率} - \text{無リスク資産の収益率}}{\text{ポートフォリオの収益率の標準偏差}}$$

※ 無リスク資産 = 無担保コール翌日物



(図表 5) 弊社ファンドのシャープレシオの実績

～弊社ファンド(トラックレコード 5 年超)のシャープレシオ(過去 5 年)の資産別平均(実績値)の分布～



【注】 リターン:「ファンドの収益率(基準価額ベース)」-「無リスク資産の収益率」、リスク:「ファンドの収益率(基準価額ベース)の標準偏差」

【時点】 2018 年 3 月末時点。【出所】 (株) 野村総合研究所「Fundmark (ファンドマーク)」のデータを基に弊社が作成。

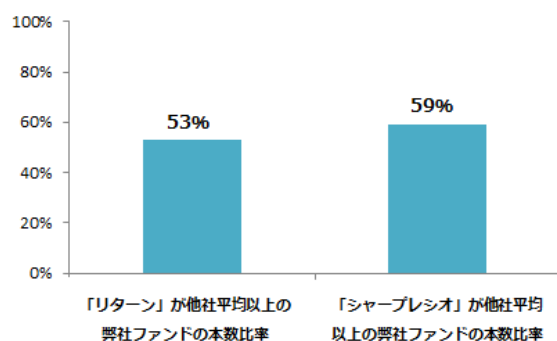
※上記は過去のデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。**【バランス型ファンドの運用実績②】:リターン及びシャープレシオの他社ファンドとの比較(運用 KPI③)**

・同種スタイルの他社ファンドと運用実績を比較することによって、弊社の運用力を測定します。同種ファンドの平均的なリターンやシャープレシオを指標として、それを上回る実績を目指してまいります。(図表 6)

・例えば、バランス型ファンドについて、同種スタイルの他社ファンドと運用実績(リターン)や商品特性(リスク・リターン)を比較することによって、弊社の運用力を点検します。但し、バランス型ファンドといっても、その組み入れ資産やアロケーション(資産配分)の違い、またアロケーション運営によって、必ずしも比較するファンドのスタイルが一致するものではありませんので、結果には留意が必要です。

・弊社のバランス型ファンドと他社の同種のファンドを比較すると、リターンにおいては 53%のファンドが他社ファンドの平均以上のパフォーマンスを示しています。さらにシャープレシオにおいては 59%のファンドが他社ファンドの平均以上のパフォーマンスを示しています。

(図表 6) バランス型ファンド/他社平均以上の弊社ファンドの本数比率(%)



【時点】 2018 年 3 月末時点。【出所】 (株) 野村総合研究所「Fundmark (ファンドマーク)」のデータを基に弊社が作成。

2. 中長期の資産形成に資する商品ラインアップに関するKPI

【残高上位 20 ファンドの保有期間】: 長期保有によりマイナスリターンが発生する確率を抑制(運用KPI④)

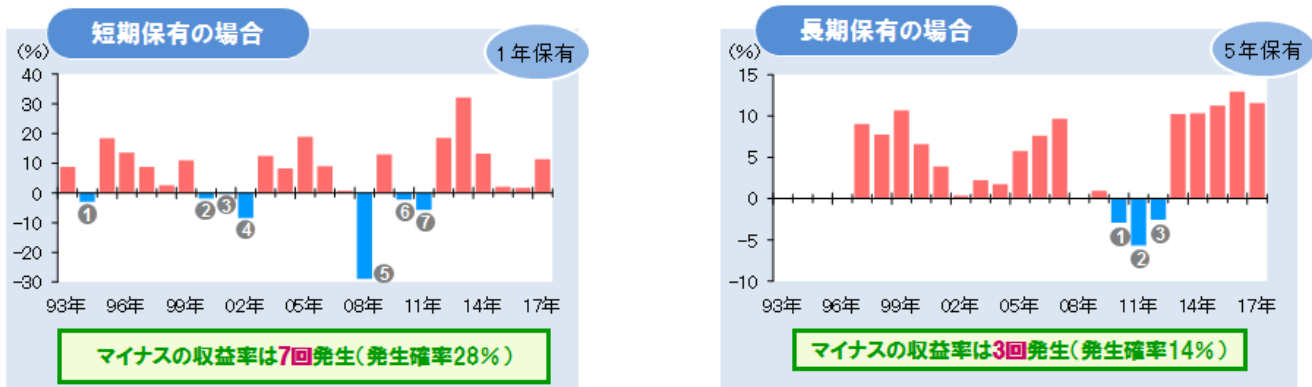
・弊社では、長期保有によりマイナスリターンが発生する確率が抑制される傾向が見られることから、長期で保有していただけるファンドの開発に力を入れてまいります。

・弊社の残高上位 20 ファンドの 95%は、市場平均の保有期間を超えており、保有平均期間は 8.0 年と市場平均の 2.7 年を大きく上回っています(図表 9)。

・資産運用では、長い目で見た場合、いくつかの資産に分散して投資することが重要と考えます。分散投資をした場合の過去の運用成果にかかる試算によると、1 年程度の保有期間では運用成果にバラつきが見られますが、5 年と長期保有することによりマイナスリターンが発生する回数が少なくなります(図表 7)。

・弊社残高上位 20 ファンド内のバランス型ファンドでは、1 年保有、3 年保有、5 年保有と、長期保有することによってマイナスリターンの発生する確率が低下しています(図表 8)。

(図表 7) 国内外の株式と債券に分散投資した場合の保有期間別収益率(年率)の推移



【注】①上記は、国内株式、国内債券、先進国株式、先進国債券の4資産に均等投資(月次リバランス)したものととして算出し、各年末から1年間、5年間の累積収益率を年率換算したもの。

②使用インデックスは以下の通り。

国内株式：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

国内債券：NOMURA-BPI 総合

先進国株式：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）*

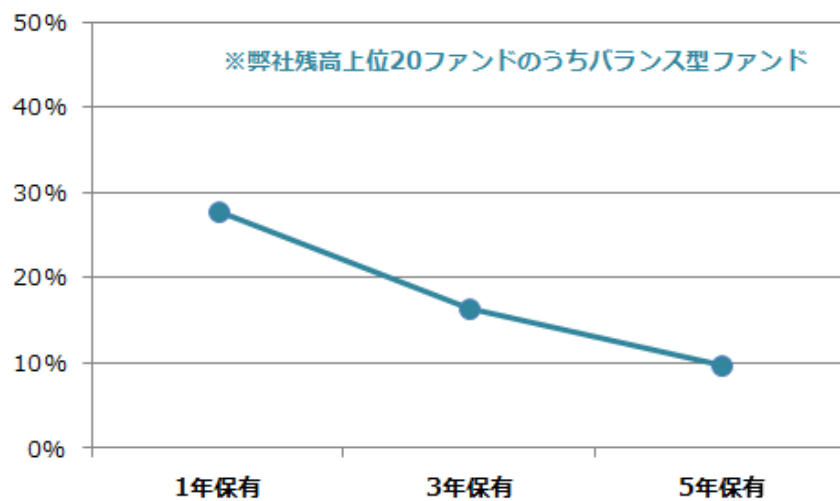
先進国債券：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

* 米ドルベースのデータを当該日の為替データをもとに弊社が円換算。その他は円ベース。

【期間】1993年～2017年、年次、【出所】Bloomberg のデータを基に弊社が作成。

※上記は過去のデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

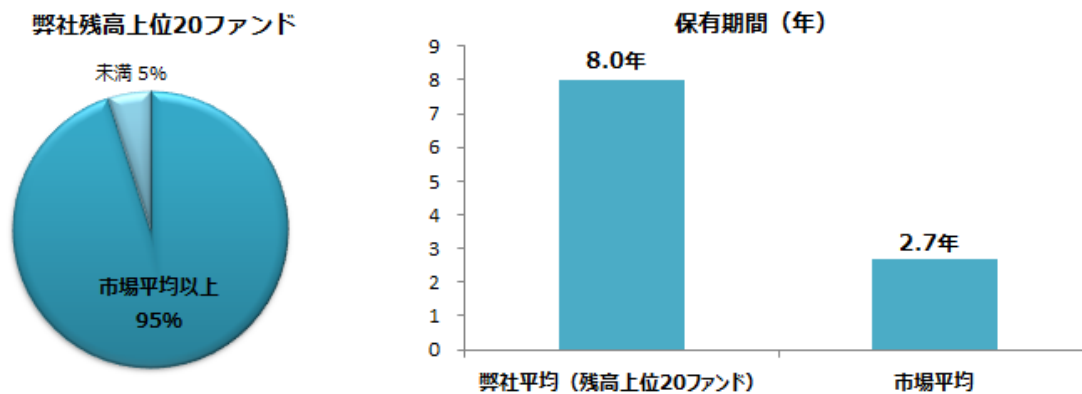
(図表 8) マイナスリターンの発生する確率(弊社バランス型ファンド実績)



【時点】2018年3月末時点。【出所】(株)野村総合研究所「Fundmark (ファンドマーク)」のデータを基に弊社が作成。

※上記は過去のデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

(図表 9) 弊社残高上位 20 ファンドの保有期間(年)



【注】弊社平均、市場平均ともに、D C (確定拠出年金) 向けファンドを含む。【時点】2018年3月末時点。

【出所】「弊社平均」は(株)野村総合研究所「Fundmark (ファンドマーク)」のデータを基に弊社が作成。「市場平均」は投資信託協会のデータを基に弊社が作成。

以上

- ・ 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ・ ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- ・ 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- ・ 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- ・ 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- ・ 資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。
- ・ 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。